



# 目 次

1. 学 校 紹 介	----- 2 ページ
2. 「にじいろ読書会」の発足の経緯と目的	----- 2 〃
3. 活 動 内 容	----- 2 〃
4. 定着浸透へのさまざまな試み	----- 3 〃
5. 子供、保護者、先生の反応	----- 3 〃
6. 成 果 と 課 題	----- 8 〃
7. 付 記	----- 9 〃
〇 実践表	
〇 にじいろだより (春号、夏号)	

# 1. 学校紹介

四ツ小屋小学校は秋田市の南部に位置し学校の周囲には田園風景が広がる、豊かな自然環境の中に建っている。ここ数年は、児童数の減少傾向が続き、現在では393名と400名を切るまでになった。保護者のみならず学区内住民の「地域の学校」という意識が高く、いつも温かい目が子どもたちを見守っている。

## 2. 「にじいろ読書会」発足の経緯と目的

平成8年度の半ば、子どもたちが日常の中で、本と出会える機会を持てるように「辻説法ならぬ辻読書を推し進めたい」という前校長の発案があった。その熱意に応えるべく、保護者並びに地域の人々が協力して集い、読み聞かせの会「にじいろ読書会」が発足するに至った。一人でも多くの子どもが本を読むきっかけとなり、本の持つ喜びを一緒に分かち合うことを目的としている。

## 3. 活動内容

### (1) 読み聞かせ

会員が自分の活動可能日に休み時間（2校時と3校時の間の30分間）に各教室に赴き、本の読み聞かせを行う。

- ・定例会の時に、会員それぞれが、翌月訪れる教室を、時間割りや学校行事などに配慮しながら決める。
- ・各クラスに月一回は行けるように努力している。
- ・子どもたちが構えることなく本に向き合える時間帯として、長休み時間に予定したクラスに入り、読み聞かせを行っている。

月曜日～金曜日 午前 10:15～10:45 午後 13:00～13:30

土曜日 午前 10:15～10:35

- ・本の選択は、家にあるもの、図書館から借りたもの等、会員の選択に任せるが、読んだ後、実践表に記入して、同じ本が重なって読まれないように配慮している。

### (2) 定例会

- ・月に1回、活動報告を通して、情報交換を行っている。未知の作品の情報を得たり同じ本でも別の視点の解釈があることを知る等、啓発を受けることが多い。
- ・翌月の活動計画を立て検討する。教室の当番をはじめ、にじいろシアターの内容や実演者の決定をする。

### (3) にじいろシアター

- ・月1回、視聴覚室において、紙芝居やパネルシアターなどを実演し、本への関心を高めてもらうことに努めている。この日は誰でも参加できる。実演した後には原作となっている本の紹介をしている。

### (4) 研修会や講習会への参加

### (5) パネルシアターや紙芝居などの制作

- ・制作に取り組んでから日が浅いので、作品数は多くないのだが、子どもたちの評判がよく、アンケートでも手作りの作品を希望することが多く寄せられている。

#### (6) その他

- ・「にじいろだより」を年2～3回発行し、保護者に配布している。担当は持ち回りである。内容を制約していないが、本の紹介が主な内容となっている。
- ・学校行事への協力、参加。

#### (7) これまでの活動記録から

年度 活動	H8年度 11～3月(4ヵ月)	H9年度 (11ヵ月)	H10年度 (11ヵ月)	H11年度 (11ヵ月)	H12年度 4～7月(4ヵ月)	合計
実施人数(人)	38人	90人	77人	76人	37人	318人
読んだ本(冊)	60冊	150冊	101冊	151冊	59冊	521冊
にじいろシアター	月1回……素話、パネルシアター、紙芝居など2～3話					
定例会	月1回……報告、反省、次の月の計画、情報交換等					

### 4. 定着、浸透へのさまざまな試み

#### (1) 会の名称を子どもたちから募集

- ・仮称「読み聞かせボランティアの会」として発足したが、子供たちに親しみをもってもらうために募集し、「にじいろ読書会」と名づけられた。

#### (2) 会員手作りのネームプレート

- ・会員がそれぞれのネームプレートを手作りして付けていっている。
- ・名前を覚えられるようになった。
- ・学校内を歩きやすくなった。

#### (3) 教室以外での読み聞かせの実施

- ・各階にある広場での実施は、遊んでいる子供たちもあり、そのパワーにおされて不評であった。
- ・視聴覚室で実施してみて、集中できてやりやすかったが、子供が限定されてきているので、現在は「にじいろシアター」のみ月1回実施している。

#### (4) 「にじいろシアター」の実施への子供たちの参加

- ・教室での読み聞かせでは味わえない雰囲気求めて参加する子供が多くなった。

#### (5) シールカードの配布

- ・参加する子供を増やすために、平成10年5月から翌年3月まで、シールカードを作成し、子供にシールをあげてみた。低学年にはたいへん効果的であった。

### 5. 子供たち、保護者及び先生方の反応

#### (1) 子供たちの反応

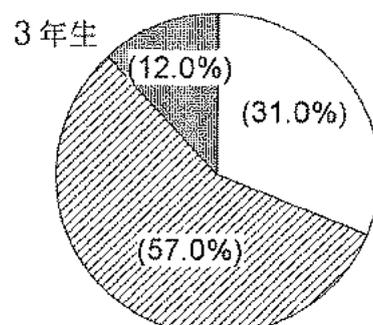
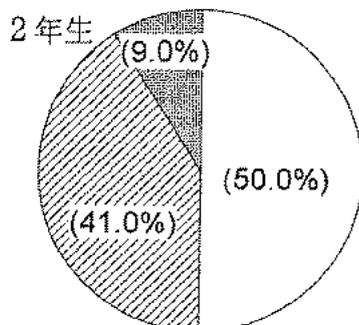
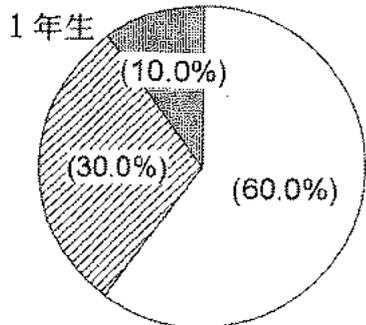
- ・次ページ「アンケート」結果を参照

# アンケート調査

1年生 2年生 3年生

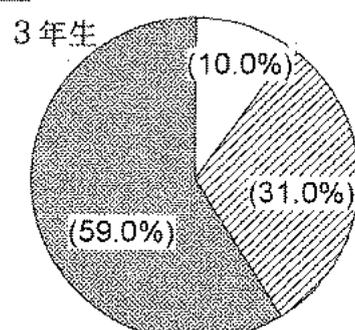
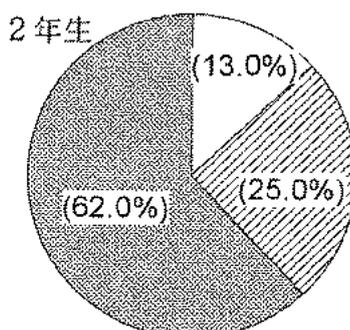
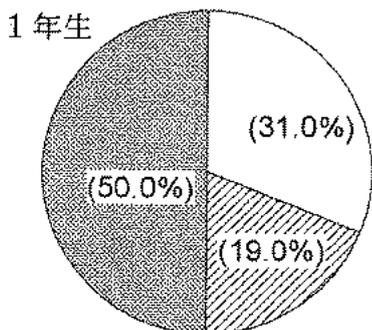
1. あなたは本を読むのが好きですか？

□ とても好き      ▨ まあまあ好き      ■ あまり好きではない



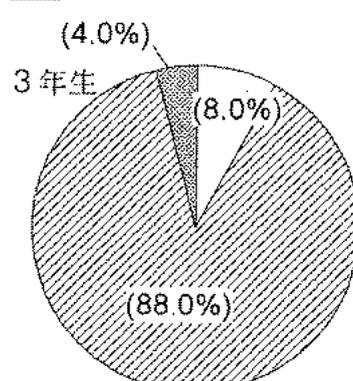
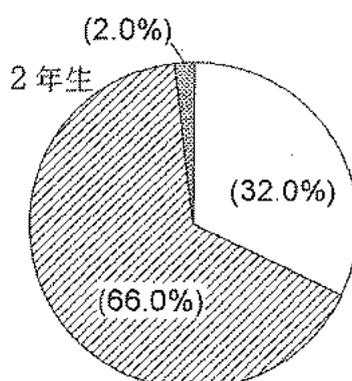
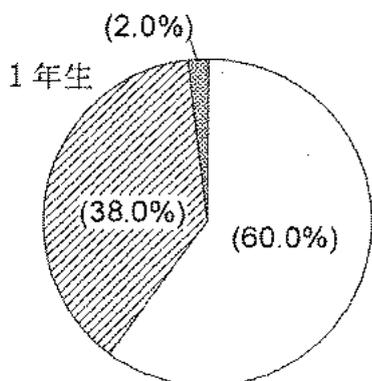
2. あなたはおうちの人から本を読んでもらうことがありますか？

□ よくある      ▨ ときどきある      ■ ほとんどない



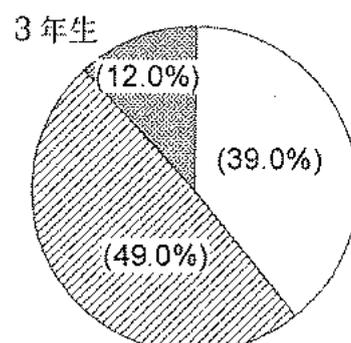
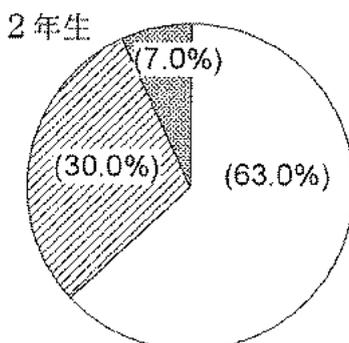
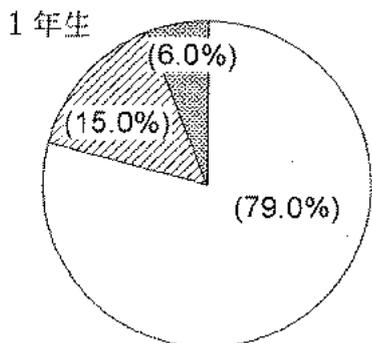
3. 休みに「にじいろ読書会」のおばさんたちが本を読みに来ています。あなたはおばさんが読んでいるお話を聞いたことがありますか？

□ いつも聞いている      ▨ ときどき聞いている      ■ 聞いたことがない



4. あなたは「にじいろ読書会」のおばさんに本を読んでもらうのが好きですか？

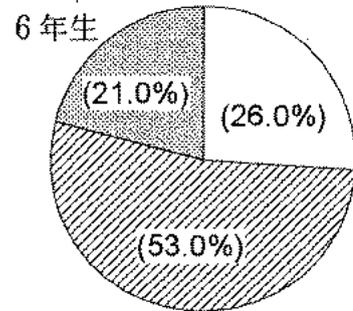
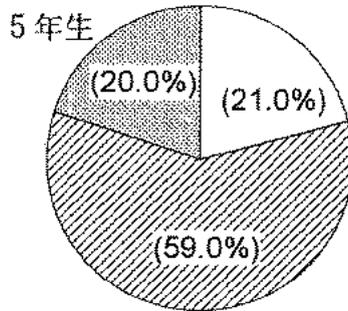
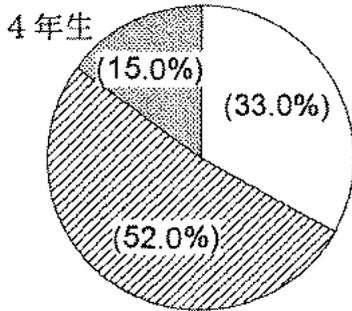
□ とても好き      ▨ まあまあ好き      ■ あまり好きではない



(1) あなたは家でマンガ以外の本を読む事がありますか？

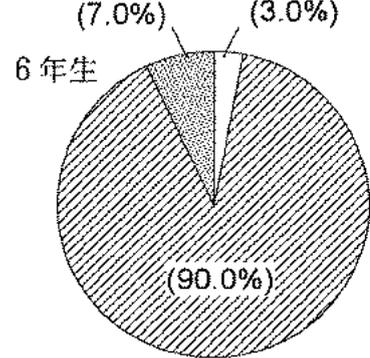
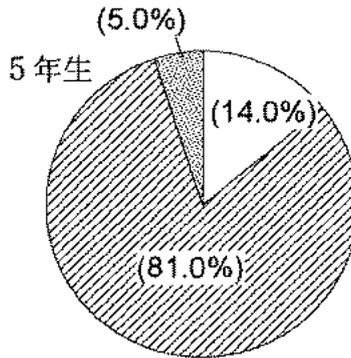
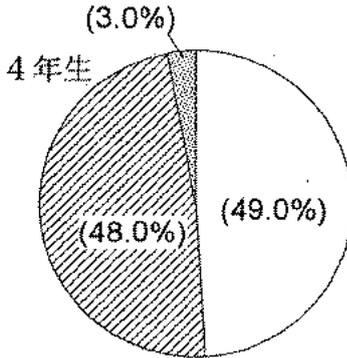
4年 5年 6年

□ よく読む    ▨ ときどき読む    ■ ほとんど読まない



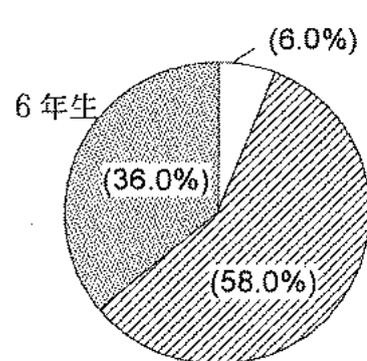
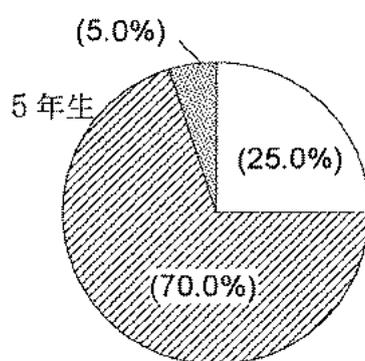
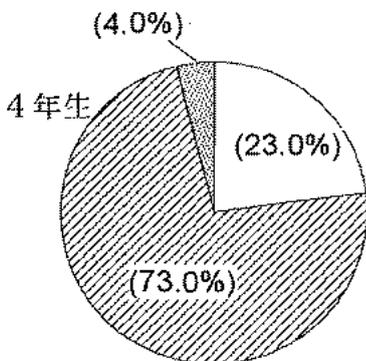
(2) 休みに「にじいろ読書会」のおばさんたちが本を読みに来ています。あなたは「にじいろ読書会」を聞いたことがありますか？

□ よく聞いている    ▨ ときどき聞いている    ■ 聞いたことがない



(3) あなたは「にじいろ読書会」のおばさんたちの読み聞かせに興味がありますか？

□ とても興味がある    ▨ 少し興味がある    ■ 興味がない



5 「にじいろ読書会」のおばさんたちに本を読んでもらうとしたら、どんな本を読んでもほしいと思いますか。いくつでも○をして下さい。

	4年	5年	6年	計
絵 本	17人	8人	12人	37人
伝 記	23人	12人	10人	45人
昔 話	23人	18人	17人	58人
本当にあった話	41人	32人	43人	116人
詩 集	5人	4人	2人	11人
児 童 書	19人	4人	6人	29人
こわい話	53人	32人	51人	136人
そ の 他	12人	1人	2人	15人

★「にじいろ読書会」についてどう思いますか。自由に書いてください。

〔 1 年 〕

- ◇おもしろい本を読んでくれてありがとう。
- ◇おばさんのこと好きです。
- ◇みていると とてもわくわくする。

おもしろい (20) たのしい (10) ありがとう (6) うれしい (2)  
またみたい (4) かみしばいたのしかったよ。たのしそうだがシアターをきいた  
ことがない。

〔 2 年 〕

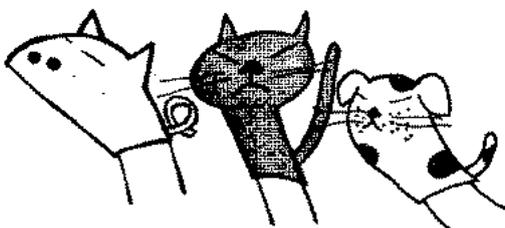
- ◇かみしばい、パネルシアターをもっとふやしてください。
- ◇いつもちがう本にしてくれるのが、いいと思います。
- ◇おもしろいからその本をかいたい。
- ◇うちにもきてほしいと思っています。まいにちきてほしい。

「にじいろ読書会」が 楽しい、うれしい、おもしろい、ありがとう (21)  
もっといろいろ読んでほしい (10) これからも続けて (5) もっと来て (4)  
作ったものをふやしてください (2)

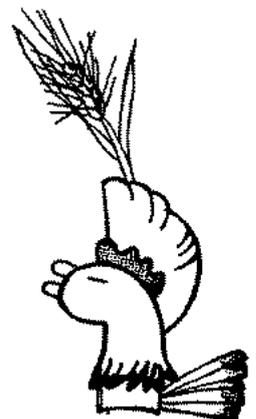
〔 3 年 〕

- ◇本が好きで読むけど小さい字は読みたくない。そんなとき読んでくれてありがとう。
- ◇本がきれいなので、にじいろ読書会で好きになりたい。

ありがとう (25) おもしろかった、楽しかった (17)  
紙芝居やパネルシアターをもっと増やして (13) これからも続けてね (7)  
読むのが上手、私も上手に読みたい、ゆめのある本を聞きたい。  
不思議な話、長い話、こわい話を。



このまたねがまきますか。



★絵本について、読書について、「にじいろ読書会」について、思っていることを自由に書いてください。

〔 4 年 〕

◇にじいろが好きになりました。ほとんど聞いています（2）

◇体育館の「遊べる日」と重なって聞けなかったり、途中までしか聞けなかったりした

◇読んでもらうのがとても楽しい（5） （9）

◇これからも聞くよう努力します。

┌たくさん読んでほしい（9） こわい話を（6） 絵本がおもしろい（5）

グループでも来て（4） オリジナルな話をもっと多く作って（4）

手作りがおもしろい、作り方を教えて（3） 昔話、本当にあった話をして（2）

└感動する話、手芸、料理、笑える話をして。

〔 5 年 〕

◇最初は「にじいろ」に興味なかったが、いろんな本に出会えてこれたので、どんどん聞きたい。

◇読んだことのない本を持ってきてくれるので、とても楽しみにしている。

◇戦争や地震など、本当にあった話をもっと紹介してほしい。

┌とても楽しい、おもしろい（14） 聞きやすい、上手（5） カード作って（5）

本当にあった話を（5） 心がこもっている、手作りがよかった（3）

ありがとう（3） 本当にあった話を（5）

└良い本を教えて、人形劇も見たい、ステージでやって、

〔 6 年 〕

◇絵本などには興味がないが、漫画には興味がある。

◇絵本は好きではないが、ミステリーは好き。

◇絵本を読んでほしい。

◇休み時間に本を読んだりすることがないので、「にじいろ」は良い時間。

◇本には興味がない。でも、「にじいろ」の人たちは頑張っているので、これからも頑張る。

┌おもしろい、楽しい、聞きやすい、うれしい（17） これからも続けて（10）

おばけリンゴよかったよ（6） 手作りをもっと（6） 絵本、紙芝居もっと（6）

楽しくない（2） つまんない、もう少しおもしろい本を。

└こんな本あるよ（3冊紹介）

## (2) 保護者の反応

- ・テープによる（後述）

## (3) 先生方の反応

- 読書離れが進む中、子供たちのありさまは由々しき問題と感じておりますが、本校のにじいろ読書会の方々には、本当に頭が下がります。日々の実践は申し述べるまでもなく、学習発表会での読み聞かせは地域の方にも感銘を与えました。着実に子供たちの心を耕していると思います。
- 子供の「読書離れ」が叫ばれる昨今、本はともだち——とばかりに読書にふける子供たちを見るのは嬉しくもあり、誇らしくもある。にじいろ読書会の役割が大きい。「子ども読書年」である。更なる一步に期待がふくらんでいく……………。
- 子供たちにいつも優しく接していただいて、いつも感謝しております。本の選定、子供たちへの話し方なども、年齢に応じて考えてくださっていますので、広場などうるさくても、子供たちはお話に集中しています。休み時間に自由に遊ぶ時間も確保していただいておりますので、初めのトイレの時間を5分とっていただけたらうれしいです。
- いつも、子供たちの興味を引くような内容を考えて本選びをして下さっていると感じています。担任として、ありがたく思っています。暑い季節に向かいますので、怖い話などありましたら、子供たちは喜ぶと思いますが、いかがでしょうか。
- 高学年の子供たちは、本を読むことや、本を使った調べ学習なども大好きです、読み聞かせなど嫌いではないのですが、自分から進んで……となるとおっくうがる子供が多いような気がします。また、読む本のジャンルの片寄りがちな子にとっても、いろいろな本の世界を知ることとはとてもよいことです。お話の絵本だけでなく発達段階に応じたさまざまなジャンルの本を紹介して下さることを望んでいます。無理なく自然に地域の方と交流の時間がもて、お母さんのやさしい語り口で聞かせて下さるのも、私たち教師が読むのとまた違ってすてきなあとと思っています。

# 6. 成果と課題

## (1) 成果

- 会の活動に対して、学校の理解と協力が一層深まってきている。そのことによって、自然に子供たちに受け入れられ、本の楽しさを共有できる機会が多くなった。
- ・低学年では、休み時間前にトイレタイムを設置し、読み聞かせを待っていてくれる学級がある。
  - ・授業終了時に、「にじいろ読書会」があることの呼びかけをしてくれている。
  - ・授業終了時に、机を移動して、読み聞かせを聞く場所作りをして待っていてくれる学級がある。
  - ・校外でも、「にじいろのおばさん」と声を掛けられ、話をするところがある。
  - ・「この本、どこで買ったの?」「市立図書館へはどうやって行けばいいの?」等の

本に関する質問を、多く受けるようになった。

- ・子供自身が読んで感動した本を薦められたりするようになった。
- ・学校の近くにある児童センターで、本を借りていく子供が増えてきた。

## (2) 課題

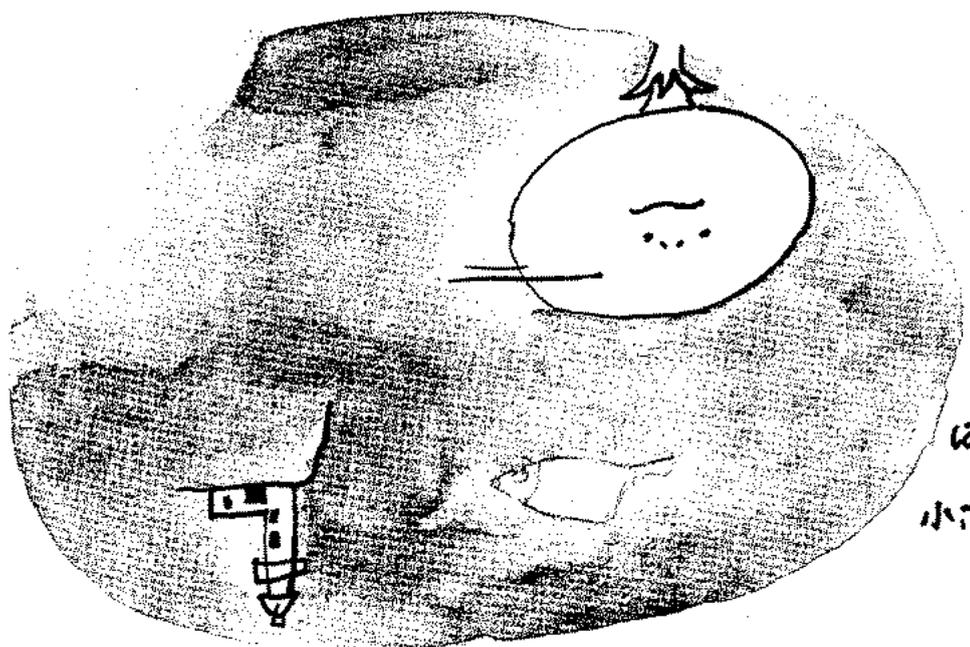
より多くの子供たちが本と出会える場を設けるために、会員の増員を目指し、活動内容と、本への知識を深めていきたい。

## 7. 付 記

子供たちが一冊でも多くの本と出会い、そしてその楽しさ、おもしろさを自然な形で知らせてあげたい……辻読書の発想から私たちの読書会がスタートし、3年が経過しました。子供たちの反応に学び、こちらの姿勢を問いながらの一步一步でした。その間、読み聞かせが子供たちにもたらす素晴らしさを伝える本や、新聞記事、講演等になんどとなく触れ、よちよち歩きの私たちも、少しはしっかりとした足取りで歩ける自信ができました。もちろん、何と言っても私たちの訪問を楽しみに待っていてくれる子供たち会の活動をバックで支えてくださる学校側の理解と協力が、私たちの原動力になっているのは言うまでもありません。

今、子供たちはたくさんの物や情報に取り囲まれて、一見豊かなようですが、それが心の豊かさと結び付かないことを大人たちは知っています。それなら私たちに出来ること……普段の学校の休み時間に、2～3冊の本を携え、教室で子供と共に楽しむこと。

「本は友だち」、この合い言葉をテーマに、子供たちが心豊かに成長してくれることが私たちの願いです。



平成12年

## 6月 にじいろ読書会実践表

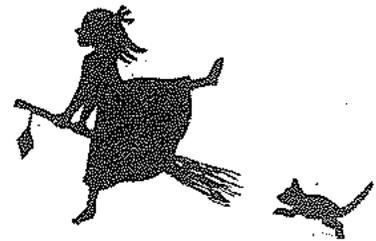
日	期	担当者(学年・学級)	書名	著作者	出版社	備考
2	金	塩谷 (4-1)	紙芝居 「おぼけリンゴ」	ヤーノッシュ	福音館	
5	月	渡辺 (1-1) 舟木 (2-2)	アフリカの太鼓 コーネリマス グジョウのくひはながゆい きみのほ ちようちよ いえでた 丸た ポットくんのおしり	沢田としき レオ・レオニ マシー・ラウン (文) 五味太郎 柳生まち子 真木雄(文)名倉ロキ(絵)	講談社 好学者 富山房 偕成社 福音館 〃	授業を早く切り上げ 子供たちがトイレ行 かせて待っていてくれ た。
6	火	佐々木 (4-2)	紙芝居 「おぼけリンゴ」	ヤーノッシュ	福音館	
7	水	柿崎 (5-1)	とっときの とりかえっこ	サリウイトマン(文) カリン・カランダヤマー(絵)	童話館出版	
9	金	舟木 (5-2)	紙芝居 「おぼけリンゴ」	ヤーノッシュ	福音館	
12	月	にじいろシアター	紙芝居 「りゅうなりたかったへび」 「おあさんだいすき(おあ さんのたんじょう日)」	松谷みよ子 マージョリ・ フラック	童心社 岩波書店	
14	水	加々谷 (3-1)				
15	木	下田 (6-2)	もこもこ 世界の民話・朝鮮 トアロウ・オアロウ アフェ・フォーバー	たかゆ しゅんたろう ロバート・マン	文研出版 理論社 岩崎書店	
16	金	渡辺 (6-3)	ペロ出しチョン マ	斎藤隆介(文) 滝平二郎(絵)	理論社	金曜日の長休みは6- 3は人数がなくなる。 以後注意
20	火	柿崎 (3-2)	うまかたやま ねずみとくじら	おざわとしお ウリアム・スライ	福音館書店 評論社	
22	木	塩谷 (6-1)	きみの行く道 マザー・テレサ	ドクター・スー・スー 文間所ひさこ	河本書房新社 フレーベル館	委員会出席以外の子 供たちが先生と一緒に 静かにきいてくれた。
23	金	渡辺 (4-1)	ベニーアすきだよ よかつたねツクン	ロジャー・デュボア チャーリップ	佑学社 偕成社	子供たちはすでにトイ レをすませ、全員で待 っていてくれた。
28	水	佐々木 (1-2)	にじいろのさか にじいろのさかしましさを にじいろのさかとおおきく	マーガス・フィスター 谷川俊太郎	講談社	
30	金	定例会 13:30 ミーティング				



春の号

# にじいろ だより

平成12年度  
にじいろ読書会



暖かな春です。田んぼをわたってくる風が、とってもきもちいいですね。  
おばさんの好きな詩を紹介しします。

はのは

阪田寛夫

あははの はのはの  
はが ぬけた  
やねの むこうへ  
ぽんと なげた  
あははの はのはは  
どこ いった  
さがしているまに  
また はえた  
はのは

あははの はのはが  
また ぬけた  
かみに つつんで  
はい どうぞ  
あははの はのはを  
どう しよう  
かんがえてるまに  
また はえた  
はのは



阪田寛夫  
童謡「きつちゃん」「おなかのへるうた」などでおなじみ  
「土の器」で芥川賞受賞  
児童向けの作品に「ぼんこつマーチ」「ほらふき金さん」  
「ピンクのくじら」「ねこねこえほん」「夕方のにおい」  
「トラジイちゃんの冒険」などがあります

## おばさんの おすすめ

★ 低学年向き

「がまんだ がまんだ うんちっち」 梅田俊作/佳子/海緒 作・絵

みおくん、学校の帰り道、おしりがむずむず。家までとってもがまんできないや。どこかに、トイレないかなあ。そうだ、よだくんちでかりよう。さて、みおくんのうんめいや、いかに…?

「海へびサイラスくん がんばる」 ビル・ピート 作 今江祥智 訳

むかし、サイラスという名の大海へびがいました。見たところ、サイラスは、恐ろしげで奇怪ですが、実は、おとなしいのです。凶暴な行動もなく、平和に大海原をさまよっていました。でもある日…

★ 高学年向き

「魔女の宅急便」 角野栄子 作 林明子 画

宮崎駿のアニメ「魔女の宅急便」の原作

アニメには出てこない珍事件が次々におこります。

「魔女の宅急便 その2ーキキと新しい魔法」 角野栄子 作 広野多珂子 画

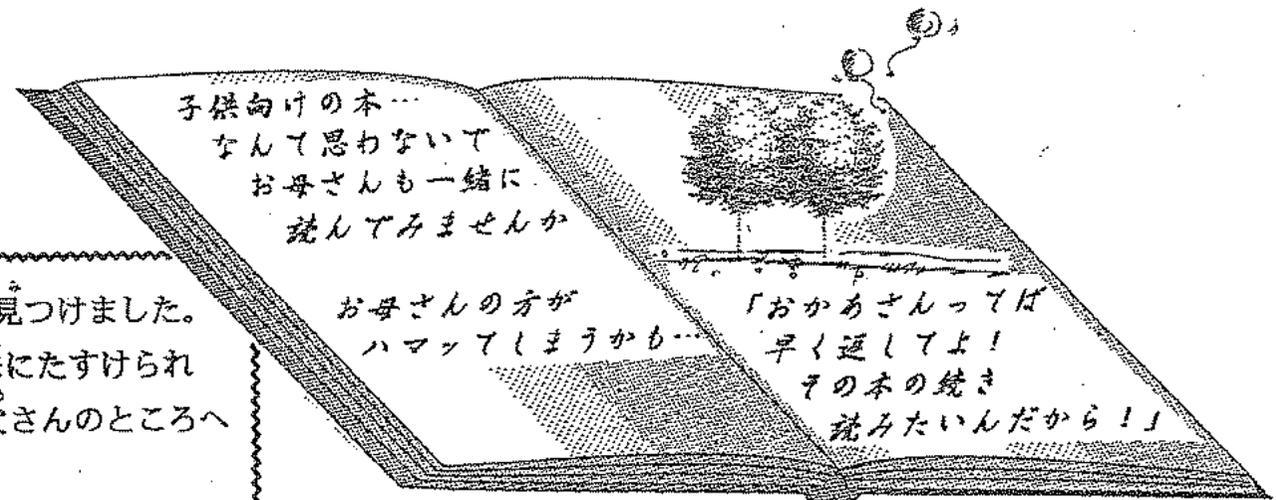
魔女の子キキと相棒の黒猫ジジの宅急便屋さんは、コリコの町で二年めをむかえました。町の人たちともすっかりおなじみになったキキに大ピンチが！真剣に悩むキキが手に入れようと決心した新しい魔法とは…?

わたしは だれでしょう  
……主人公あて クイズ

・ぼくたちは、森の中に  
すてられてしまいました。  
・森のなかで、まいごになった  
ぼくたちは、おかしで できている家を見つけました。  
・まじよに食べられそうなところを、妹にたすけられ  
まじよの宝石をおみやげに、ぶじ、お父さんのところへ  
帰ることができました。

ぼくたちとは いったい だれでしょう?

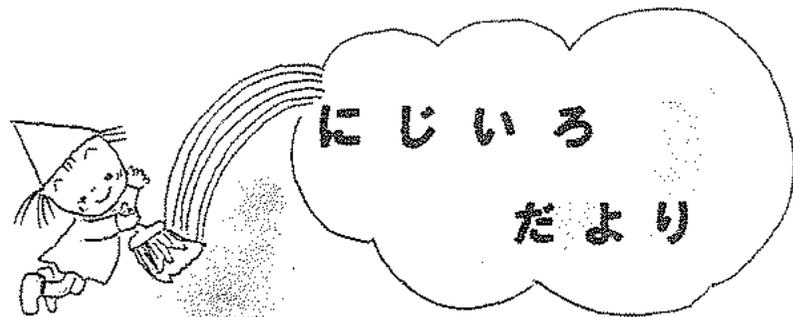
こたえ：マゼンタレター



子供向けの本…  
なんて思わないで  
お母さんも一緒に  
読んでみませんか

お母さんの方が  
ハマってしまうかも…

「おかあさんってば  
早く返してよ！  
その本の続き  
読みたいんだから！」



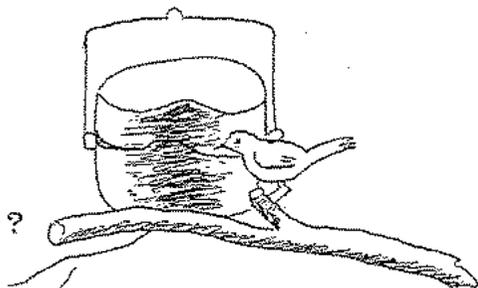
# にじいろ だより

平成12年度 夏号

にじいろ読書会

もうすぐ夏休み！  
海や山、自然の中で楽しめることがいっぱい。  
お気に入りの本も持って レッツ ゴー！

みなさんは、キャンプに行ったことがありますか？  
今回は、キャンプのお話の本を紹介しします。  
行ったことがないあなたも、この本を読めば、キャンプの楽しさを味わえますよ。



「くんちゃんのもりのキャンプ」 はじめて森の中で、いとことキャンプをするくんちゃん。

ドベンギン社

はじめてのことには、失敗がつきもの。でも、いとこが  
やさしく正しいやり方を教えてくれます。

ロンー・マリノ さく  
まさき るりこ やく

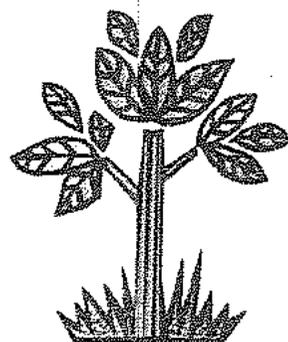
くんちゃんの失敗が、おもしろいですよ！

「星空キャンプ」

講談社

村上 康成 さく

家族3人が、一週間湖畔でキャンプをしています。  
毎日、自然の中で何かを見つけ、何かを感じて過ご  
します。その何かを、あなたも見つけてみて。  
地球というこの星の上で、いろんな生き物が同じ空気を  
吸っていっしょだということが、伝わってくるよ！



「はじめてのキャンプ」

福音館書店

林 明子 さく

ちっちゃいなほちゃんは、大きい子にまじって川原で  
キャンプ。大きい子のように、キャンプの準備が  
できるかな？



人との出会いがあって、心が通い合って、初めて世界をしり 自分を知り 経験が心の中で実を結ぶ。

## 夏休みに、じっくりと本を読みたいあなたに おばさんからのおすすめの本

「トラねこマーチンおずみをかう」

あかね書房

D・キング＝スミス 作

金原 瑞人 訳

津尾 美智子 絵



「じろはったん」

アリス館

森 はな 作

梶山 俊夫 絵



先日は、にじいろ読書会のアンケートに協力していただきまして、ありがとうございました。  
たくさんの感想をいただき、これからの活動の励みになりました。一部、紹介しします。

とてもたのしいです。  
おばさんのこと好きです。

1年生

たのしくて、おばさんがくるのが  
たのしみでたまりません。

2年生

にじいろシアターは、  
ふつうの本より楽しいです。

3年生

体育館で遊べる日とかさなると つい、体育館へ行ってしまいます。  
今度は、せっかく来てくれるのだから じっくり聞きたいです。

4年生

にじいろ読書は、いい話で、  
うっとりして聞いています。

5年生

おばさんたちは、本を選んで読んでくれたり、  
紙芝居を作ってくれたりして、うれしいです。

6年生

◆ 質問もありました。

「なぜ、にじいろ読書会をやっているの？」

本に親しみ、読書を好きになってもらいたいからです。

「読んでくれる本は、どこから持ってきているの？」

自分のうちにある本や新屋図書館、明德館から借りてきた本です。

「どうしたら、すらすら読めるの？」

何度も読んで、お話の世界に自分が入っていくことです。



◆「もっと、来る回数を増やして」という声もたくさんありました。

現在、活動している会員は、11名。各クラスに月1回は、行けるようにしています。  
子供たちの希望に答えてあげるためにも、保護者・地域の方々の参加をお願いします。